

環境経営レポート

2023年度

(2023年11月01日 ～ 2024年10月31日)



竣工 : 令和 6 年 3 月
発注者 : 宮崎県南那珂農林振興局
工事名 : 令和5年度 林地荒廃防止事業 銀杏ノ木

作成日 2024年 11月 30日

株式会社 八重尾組

【 目 次 】

表 紙		1
目 次		2
1、組織の概要及び対象範囲		3
1) 事業所名及び代表者名		3
2) 所在地		3
3) 責任者及び事務局及び連絡先		3
4) 事業創立年月日		3
5) 事業活動の内容		3
6) 事業規模		3
7) 対象範囲		3
8) 推進組織図		4
2、環境経営方針		5
3、環境経営目標		6
4、環境経営目標の実績		7
5、環境経営計画と取組結果とその評価		8
6、次年度の環境経営目標及び環境経営計画		9
7、環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無		10
8、代表者による全体評価と見直しの結果		10

1. 組織の概要及び対象範囲

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 八重尾組

代表取締役 八重尾 晋吾

2) 所在地

本社事務所 〒886-0113 宮崎県小林市須木鳥田町3433番地

資材倉庫 〒886-0113 宮崎県小林市須木鳥田町3210番地3

3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先

EA-21責任者：代表取締役 八重尾 晋吾

EA-21事務局：責任者 伊福 民朗

総務課 高牟禮 峰子

連絡先：伊福 民朗 高牟禮 峰子

T E L：0984-48-2447

F A X：0984-48-2026

E-mail：haeon-1233@proof.ocn.ne.jp

4) 事業創立年月日

昭和 41年 7月 1日〔創立から 58年〕

5) 事業活動の内容

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、管工事業、解体工事業
鋼構造物工事業、舗装工事業、塗装工事業、水道施設工事業）

6) 事業規模

項目	単位	2021	2022	2023
工事件数	件	16	20	22
従業員数	人	9	9	9
事務所床面積	m ²	263	263	263
倉庫床面積	m ²	285	285	285
敷地面積	m ²	1,035	1,035	1,035
資・機材置場 敷地面積	m ²	3,682	3,682	3,682
工場・作業所等 床面積	m ²	307	307	307

7) 対象範囲〔全組織・全活動〕

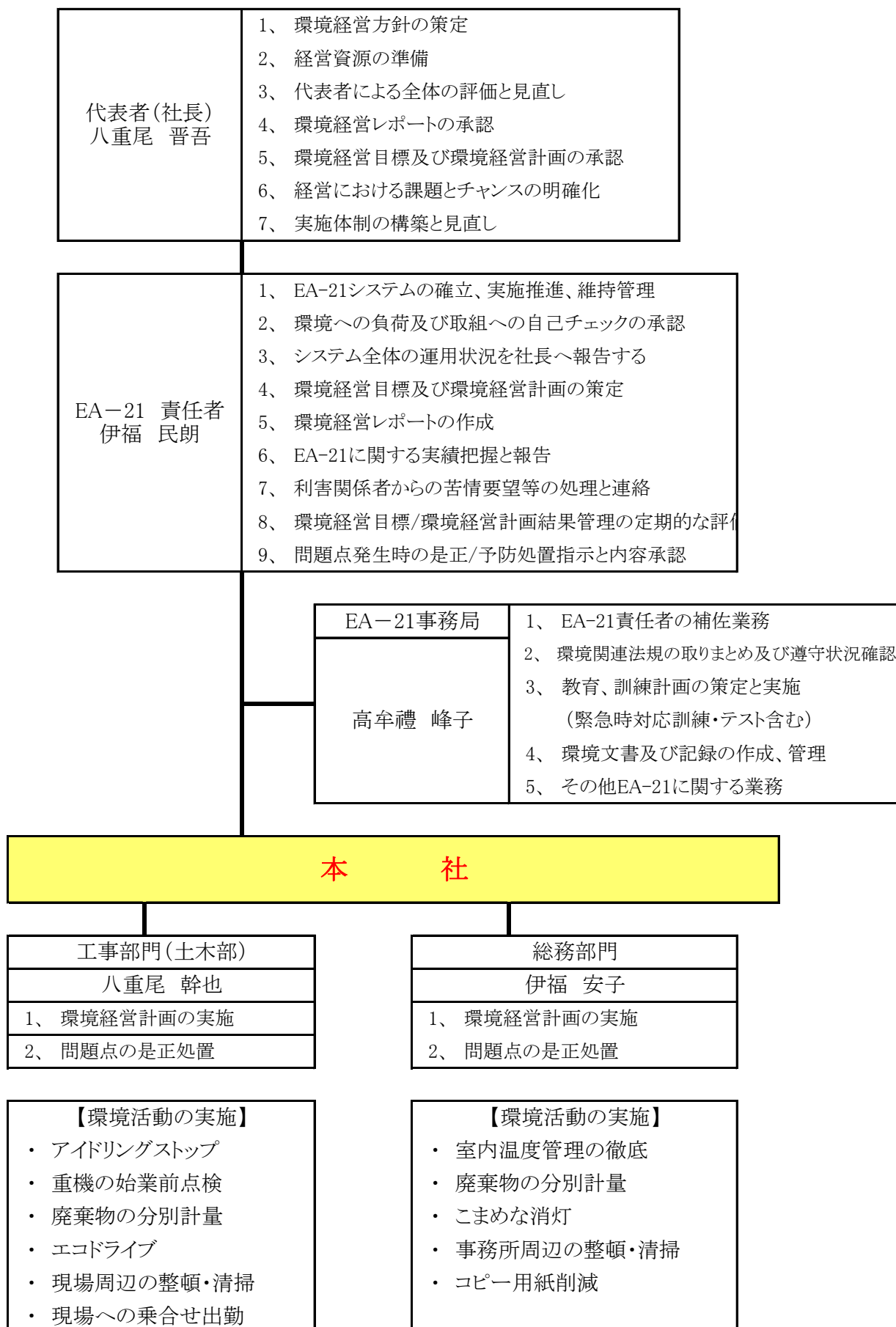
組織 本社事務所・資材倉庫

活動 5) 事業活動の内容のすべて

レポート対象範囲 表紙に掲載

レポート発行日 表紙に掲載

株式会社 八重尾組 環境活動推進組織図



2. 環境経営方針

環境経営方針

環境理念

株式会社八重尾組は、エコアクション21に取り組むことで、循環型社会環境の構築に貢献します。

方 針

株式会社八重尾組は、事業活動が与える環境負荷を把握し、資源循環型社会、及び低炭素化社会による持続可能な環境づくりは社会共通の最重要課題であることを認識して、事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動により、広く地域・社会に貢献します。

1. 我々は建設事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め継続的な改善に努めます。
2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します。
3. 事業活動に於いて環境に与える影響を軽減するため、次の項目を優先的に取り組みます
 - ①電気使用量・化石燃料使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減
 - ②建設現場や事業所から排出される廃棄物の削減
 - ③節水活動による水使用量の削減
 - ④環境保全活動の推進による社会貢献活動
 - ⑤工事事業においては、環境に配慮した施工計画を積極的に提案します
4. 人材不足や社員の高齢化が進む中で、若手社員の育成に努める。

この環境経営方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009/10/16制定
2011/12/01改定
2019/11/01改定
2021/11/01改定

株式会社 八重尾組

代表取締役 八重尾晋吾

3. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
尚、目標設定の基準は、2011年度～2020年度の年平均を使用しております。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年 度 別 環 境 目 標			
		基準値 (2011年度～2020年 度の平均)	2022年度 (2022年11月～ 2023年10月)	2023年度 (2023年11月～ 2024年10月)	2024年度 (2024年11月～ 2025年10月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	11,007.5	10,897.4	10,842.3	10,787.3
	現場	153,914.6	152,375.4	151,605.7	150,836.3
	全体	164,922.1	163,272.8	162,448.0	161,623.6
			1%削減	1.5%削減	2%削減
	①電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	事務所	22,932.2	22,702.9	22,588.2
		現場	3,888.4	3,849.5	3,830.1
		全体	26,820.6	26,552.4	26,418.3
			1%削減	1.5%削減	2%削減
	②ガソリン使用量の 削減 (L)	事務所	0.0	0.0	0.0
		現場	13,549.0	13,413.5	13,345.7
		全体	13,549.0	13,345.7	13,278.0
			1%削減	1.5%削減	2%削減
	③軽油・ディーゼルSP油使用量 の削減 (L)	事務所	0.0	0.0	0.0
		現場	46,749.8	46,282.3	46,048.5
		全体	46,749.8	46,282.3	46,048.5
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	事務所	137.8	136.4	135.7
		現場	0.0	0.0	0.0
		全体	137.8	136.4	135.7
	②. 建設副産物の再資源化率 の向上 (%)	現場	774.4トン (再資源化率100%)	環境経営計画を遵守し、再資源化率の向上を目指す。 (再資源化率95.0%以上)	
3. 水資源使用量の削減 (m ³)			1%削減	1.5%削減	2%削減
		事務所	705.8	698.7	695.2
		現場	0.0	0.0	0.0
		全体	705.8	698.7	695.2
有 4 益・ な 環 境 活 動 に	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	4回	4回/年	4回/年
	②. 環境配慮型の取組推進	全社	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守

*2022.12.1 改訂点 ・基準年を見直し第五次中期の環境経営目標を設定した。

- ・電気のCO₂排出係数は、R04.1.7公表の九州電力の調整後排出係数0.480(kg-CO₂/kWh)を採用した。
- ・重油は年々使用量が減っており軽油に合算して、今後最終的に使用ゼロとする。
- ・灯油の使用量は極めて少ないため第四次同様に取組項目から外した。ただ削減は継続する。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用も購入もありません。

※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した(排出量(kg-CO₂) = 使用量(A)×排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.480	(kg-CO ₂ /kWh) *R04(2022)/1/7 環境省公表・九州電力の調整後を採用
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L) 2017年版環境への負荷の自己チェックの係数に合わせた
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L)

4、環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ・実績値は、2023年度運用期間(2023/11～2024/10)の12ヶ月と、目標値は基準年度(2011～2020年度)の同期間の削減率から算出した年合計の値と比較する。

取組項目		部門	2023年度 ★目標値★ (11～10月)	2023年度 ★実績値★ (11～10月)	達成率	判定
1. 二酸化炭素排出量の削減 〔kg-CO ₂ 〕		事務所	10,842.3	7,371.8	147.1%	○
		現場	151,605.7	148,055.3	102.4%	○
		全体	162,448.0	155,427.1	104.5%	○
	①電気使用量の削減 〔kWh〕 1.5%削減	事務所	22,588.2	15,358.0	147.1%	○
		現場	3,830.1	5,344.0	71.7%	×
		全体	26,418.3	20,702.0	127.6%	
	②ガソリン使用量の削減 〔L〕 1.5%削減	事務所	0.0	0.0	—	—
		現場	13,345.7	16,480.9	81.0%	×
		全体	13,345.7	16,480.9	81.0%	×
	③軽油使用量の削減 〔L〕 1.5%削減	事務所	0.0	0.0	—	—
		現場	46,048.5	41,571.5	110.8%	○
		全体	46,048.5	41,571.5	110.8%	○
2. 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減 〔kg〕 1.5%削減	全体	135.7	87.0	156.0%	○
	②建設副産物再資源化率の向上 〔率〕	現場	環境経営計画の遵守による再資源化率の向上を図る(95%以上)	(排出量 482.6トン)再資源化率88.2%)	92.8%	×
3. 水資源使用量の削減 〔m ³ 〕 1.5%削減		全体	695.2	693.0	100.3%	○
4. 環境に 有益な活動	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	4	9	225.0%	○
	2. 環境配慮型の取組推進	全体	環境経営計画の遵守	遵守	—	○

*購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後排出係数0.480(kg-CO₂/kWh)を使用しました。

*達成率は、項目1～3が、目標/実績で 100%以上が評価○で、項目4～5が、実績/目標で 100%以上が評価○とする。

*軽油使用量には、ディーゼルSP油を含む。

5.環境経営計画と取組結果及びその評価

2023年11月1日から2024年10月31日までの環境経営計画と取組結果及びその評価は、以下の通りです。

実施スケジュールは2023年11月から2024年10月

取組み項目と活動内容		取組み結果	評価
1 ・二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】	年間使用量は、事務所は目標値を達成できた。現場においては年間9ヶ所受注でき、各現場に現場事務所を設置し現場の電気使用量が増えた。 今後も 【電気使用量の削減】 の活動を継続して目標達成を目指す。	
	①不在箇所、昼休み等の電気消灯の徹底		○
	②空調温度管理(設定温度遵守)		○
	③照明器具の定期清掃		○
	④エアコンフィルターの定期清掃		○
	【ガソリン使用量の削減】	活動計画は意識を持って遵守しているが、当年度は順調な受注増で複数の現場が稼働したためガソリンの使用量が増加し目標達成出来なかった。	
	①エコドライブの徹底(アイドリングストップ、急加速等の禁止)		○
	②車輛管理の徹底(運行日誌)		○
	③効率の良い配車・相乗りの推進		○
	④早めのアクセルオフ運動の推進		○
	【軽油使用量の削減】	岩瀬川掘削工事および川内川護岸工事が、大型バックホウ、大型ダンプ等の大型機械の使用台数が多く軽油の使用量が増えた。年間の使用量は目標値を達成できた。	
	①エコドライブの徹底(アイドリングストップ、急加速等の禁止)		○
	②車輛管理の徹底徹底(運行日誌・定期点検)		○
	③重機の定期点検整備の実施		○
	④重機のアクセル7割運動の推進		○
2 ・廃棄物の削減	【一般廃棄物の削減】	年間を通して達成できた。今年度も、取組み項目と活動内容』についての項目は社員の協力のもと評価できた。	
	①廃棄物の分別計量と記録		○
	②ゴミの入口管理の徹底		○
	③コピー用紙などの削減		○
	④資材梱包材の業者持ち帰り依頼		○
	【建設副産物廃棄方法の遵守】	取組み項目①～④とも遵守され、廃棄方法も別途決められた方法で処理されている。今後も建設副産物の処理に関しては、処理場の能力、場所等を考慮して処分場を選定していく。	
	①排出先(リサイクル業者)の選定と確認		○
	②残余材発生防止のため、資材発注時は在庫の確認		○
	③現場で残余資材が発生したら、持ち帰り分別して保管し再利用を推進する。		○
	④資材包装物は業者へ持ち帰りを徹底する。		○
3 ・水の削減	【水資源使用量の削減】	水資源の使用量については、10月にオーバーしたが、年間使用量は目標値内に収まっている。来期も水資源の使用量の削減の取組を維持していく。	
	①定期的な漏水点検		○
	②手洗い時の流水を短くする		○
	③洗車時はこまめに蛇口を開閉する		○
4 ・有益な環境活動	【環境保全の取組推進】(ボランティア活動の実施)	事務所周辺の道路掃除は本年度も実施した。今年度も地域ボランティア活動については、参加できた。	
	①事務所周辺の清掃活動		○
	②現場周辺の清掃活動		○
	③地域ボランティア活動参加		○
	【環境配慮型の取組推進】	工事現場では常に環境に配慮した機械の使用と作業に心掛けている。今期も、大淀川流域ネットワーク「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」に参加した。	
	①環境に関する研究・講習への参加による提案力アップ		○
	②環境配慮型工法の提案・実施や重機等の利用		○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営目標及び環境経営計画は、下記の通り取り組みます。

(実施スケジュール:2024年11月～2025年10月)

取組み項目 (目標項目)(単位)		活動内容	推進 責任者	環境経営 目標
省 エ ネ ル ギ ー 項 目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	・省エネ活動の推進	EA21 責任者	次年度の環境経営目標は、6ページの3. 環境経営目標に詳細を掲載しています。
	①電気使用量の削減 (kWh)	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理(設定温度遵守) ③照明器具の定期清掃 ④エアコンフィルターの定期点検・清掃	総務部門 伊福 安子	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップ・急加速等の禁止) ②車両管理の徹底(運行日誌) ③効率の良い配車・相乗りの推進 ④早めのアクセルオフ運動の推進	工事部門 八重尾 晋吾	
	③軽油使用量の削減 (L)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップ・急加速等の禁止) ②車両管理の徹底(運行日誌・定期点検) ③重機の定期点検整備の実施 ④重機のアクセル7割運動の推進	工事部門 八重尾 晋吾	
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	①廃棄物の分別計量と記録 ②ゴミの入口管理の徹底 ③コピー用紙などの節減 ④資材梱包材の業者持帰り依頼	全部門 高牟禮 峰子 八重尾 晋吾	
	②. 建設副産物廃棄方法 の遵守	①排出先(リサイクル業者)の選定と確認 ②残余材発生防止のため、資材発注時は在庫の確認 ③現場で残余資材が発生したら、持ち帰り分別して保管し再利用を推進する。 ④資材包装物は業者へ持ち帰りを徹底する。	工事部門 八重尾 晋吾	
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		①定期的な漏水点検 ②手洗い時の流し水を短くする ③洗車時はこまめに蛇口を開閉する	総務部門 伊福 安子	
4 有益な環境活動	①環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	①事務所周辺の清掃活動 ②現場周辺の清掃活動 ③地域ボランティア活動参加	総務部門 伊福 安子	
	②環境配慮型の取組推進	①環境に関する研究・講習への参加による提案力アップ ②環境配慮型工法の提案・実施や重機等の利用	工事部門 八重尾 晋吾	

※ 前年の取組結果から特に不具合が無いため、基本的には次年度も同じ内容で活動するが、社会情勢や、事業内容等の変化があった場合、活動内容は適宜見直していく。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社では、環境関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。
また監督官庁からの指摘及び、地域住民から訴訟等ありませんでした。
尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。
当社の事業に関係する主な環境関連法規制は、担当者がWeb(環境省ホームページの環境基準・法令等)の改定履歴や建設業協会からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行っています。

〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、契約書の保存(契約終了から5年間)	遵守
	マニフェストの交付、回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)及び多量排出報告書(処理計画書・実施報告書)	遵守
	保管場所の掲示板(60x60cm)の設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 ・解体工事を直接請け負う元請け業者の義務(フロンの有無書面確認と発注者への説明)	遵守
大気汚染防止法	・解体・改修工事に伴う石綿等の除去作業 ・建築物等の解体、改造、補修作業に伴う建設工事での特定粉塵処理	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示〔○当年度の評価 ●次年度への指示〕
①環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況の結果	○目標の達成状況は、環境経営目標達成状況管理表により確認した。 電気使用量は、事務所は目標値は達成できた。しかし、現場の電気使用量は、昨年度とほぼ同数受注(9箇所)の受注でき、毎月3～4件の現場事務所を設置し年合計で未達成だった。現場での節電について指導していきたい。現場のガソリンは複数の現場によって未達だった。軽油・ディーゼルSP油については、1月～6月の川内川 外1河川 掘削工事、堆積土砂の掘削・捨土のため大型掘削機械・大型ダンプ等の使用が多く、目標値をオーバーしたが年間の合計数量は、大幅に減った。水資源等その他の取組項目も、年間を通じてほぼ達成できたことは評価する。 ●次年度(2024年度)も第五次中期計画の3年目の目標、活動計画を全社員に周知・共有し、目標達成意識で活動していただきたい。 *-----* ○計画の実施状況は、環境経営計画(兼)実施状況で確認した。当年度も全社員の環境に対する意識アップにより評価できた。 ●次年度(2024年度)は、第五次の環境経営計画の活動内容を更に周知して実施していただきたい。2024年度が終了したら、第六次中期での活動計画を見直しする。
②環境関連法規等の遵守状況	○当年度も当社に必要な環境関連法規は取り纏めされ遵守されている。 ●例年ではあるが、コンプライアンス遵守は会社として重要な取り組みであり、当社に関連する法規等は運用開始時に必ず見直し最新で運用すること。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	・環境情報記録表で確認した。環境に関して当年度も苦情、クレームが無かったこと、またボランティア活動には、建設業協会をはじめ、その他の行事には、積極的に参加した。ボランティア活動については評価する。
④環境経営方針	○2021/11/1代表者変更の改定を実施したが特に不具合はなかった。 ●次年度も現行方針を継続する。
⑤実施体制	○当年度も、特に不具合はなかった。 ●次年度は環境管理責任者を代表者が兼任する事とする。
⑥環境経営システム(その他全般)	○2023年度より実施体制を見直し、関連する各種書類も見直した。 ●次年度は、エコアクションを始め16年目、当初環境関連法規等は気に掛けなかったが、審査員・コンサルタントの方々に指導・教育をして頂き、地球環境問題にもいろいろな法令等があると勉強になりました。